

【生薬名】黄柏[㊦] *PHELLODENDRI CORTEX*

【起源植物】キハダ *PheIIodendron amurense*



【科名】ミカン科 Rutaceae

【別名】キワダ、黄檗、陀羅尼助(奈良県)、練熊(山陰)、百草(飛騨、信州) 檗木、

【薬用部分】樹皮

【主成分】アルカロイド(ベルベリン1.2%、パルマチン、オウバクノン)

【薬性】気味は苦寒、帰経は腎胆膀胱大腸に属す

【効能】●清熱乾湿・瀉火解毒・清虚熱

●苦味健胃薬として下痢、消化不良、食欲不振など

1日3～5gを煎服、粉末は1日1～3gを3回に分けて服用

●感冒時などの咽痛には粉末0.1～0.2gを水180mlに溶かして1日数回うがいする、少量の水に溶かした後に希釈する(この様に溶かさないと黄柏は団子状になってしまう)、慢性の扁桃炎にも長期間うがいすると改善を認めます

●殺菌力があるので擦り傷や切り傷に粉をふりかける

●打撲には粉末を水で練って患部に湿布する

(クチナシの実の粉末を同量加えると更に効果的)

●抗消化性潰瘍、肝障害改善、抗炎症、中枢抑制(鎮静・解熱)、降圧、免疫抑制、鎮痙、利胆などの作用が認められている

●陀羅尼助丸は古来より下痢止め薬として今でも人気がある

【出典】●黄檗 苦寒、火を降し陰を滋し、骨蒸、湿熱、下血を堪任す。(薬性歌)

●殺蟲、療腸胃中結熱、熱痢、目熱赤痛。(一本堂薬選)

【備考】●

【処方例】●中黄膏、黄連解毒湯、清暑益気湯、半夏白朮散天麻湯など